

平成28年度 第9回高山市教育委員会臨時会議事録

1. 日 時 平成28年10月3日（月） 午後1時30分から
2. 場 所 高山市役所 行政委員会室
3. 出席者 委員会 中村教育長、針山委員、打江委員、岡田委員、野崎委員、長瀬委員
事務局 井口教育委員会事務局長、西本教育総務課長、山本学校教育課長、中井文化財課長、瓜田学校給食センター所長、教育総務課 直井
4. 欠席者 委員会 欠席なし
5. 署名者 長瀬委員

午後1時30分開会

○中村教育長 本日の委員会は、出席者6名で地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定に基づき、定足数に達していますので、成立しております。
ただ今から、平成28年度第9回高山市教育委員会臨時会を開会いたします。

○中村教育長 会議録署名委員の指名を行います。
本日の会議録署名委員は、「長瀬委員」を指名いたします。

○中村教育長 それでは、日程第1、報告28「教育長職務代理者の指名について」を事務局より報告願います。

○西本教育総務課長＜資料に基づき説明＞

○中村教育長 事務局の報告は終わりました。
只今、事務局より説明のあったとおり今回の指名は前教育長職務代理者の針山委員の任期満了により職務代理者が不在となったことにより、改めて指名をさせていただくものです。
なお、指名には任期に特段の定めがございませんが、毎年、お一人ずつ委員の任期を迎えることから、この場の申し合わせとして1年毎に指名させていただくこととしたいと思いますがお伺いします。

（異議なし）

○中村教育長 それではご意見もございませんので、教育長職務代理者は引き続き針山順一郎委員に指名させていただくことを報告いたします。
なお、併せてこれも法に定めはございませんが、旧教育委員会制度では教育委員長を支える教育委員長職務代理者という立場がありました。そのような観点から、私の思いとして教育長職務代理者を支えていただく立場を、長瀬信委員にお願いしたいと思います。

ご意見をお伺いいたします。

(異議なし)

○中村教育長 全般を通じてご異議がないようですので、針山職務代理者から一言ご挨拶をお願いいたします。

(針山委員あいさつ)

○中村教育長 ありがとうございました。
次に、長瀬委員からも一言ご挨拶をお願いいたします。

(長瀬委員あいさつ)

○中村教育長 ありがとうございました。
では、これで報告 28 を終結いたします。

○中村教育長 次に日程第 2、報告 29 「子どもたちの居場所づくりについて」を事務局より報告願います。

○山本学校教育課長＜資料に基づき説明＞

○井口教育員会事務局長＜資料に基づき説明＞

○中村教育長 事務局の報告は終わりました。ご質疑等はございませんか。

○長瀬委員 前回、針山委員の提案に対して既に関係課との会議がすすめられており、資料の（2）にある貧困、子育て支援という部分については学校が立ち入れない部分でもあり、特に小学校就学前に関係機関の連携を深めていただき、何らかの不安を抱えた子どもが入学する際には小学校と情報共有することが学校にとっても心強いことだと思います。

学校においては、入学してから新たな不登校を生み出さないことが最も大切であり、そのために子どもたちの居場所が必要であると考えます。子どもたちは人間関係や勉強の部分において悩みがあると居場所が狭まっていきますが、資料の（1）にある、教育相談の充実による未然防止・早期発見・早期対応の中身が充実していれば、居場所づくりの問題はかなり前進できると思います。そのために、学校においては、勉強に苦手意識を持たない確実な学習指導や運動が苦手な子どもに対しては運動会など体育行事で目配りをするなど、単に組織連携を行うだけではなく、本質的な意味での未然防止・早期発見・早期対応が行えるよう、教育委員会として取り組み学校に発信していくことを強く望みます。

○野崎委員 関係機関の連携強化について、私は仕事の関係でアルコール依存症の親と関わることもあります。福祉課や子育て支援課など複数の機関にまたがることもあり、このように横の連携が図れることはありがたいことです。また、同様に県の子ども相談センターと関わることも多いのですが、これら機関との連携はどのように考えていますか。

○井口教育委員会事務局長 庁内の福祉課、子育て支援課、学校教育課の会議は、関係機関との連携による子どもたちの居場所づくりのための第一歩であり、今後その中では当然、県の子ども相談センター等との連携についても検討されていくことになると思いますし、更には社会福祉団体やNPOなどの方々にも加わっていただき対応をすすめていきたいと考えています。

○針山委員 先日、県教育委員会、校長会会長会との懇談の場があり、岐阜県は他の都道府県に対して不登校割合がやや高い傾向にあり危機感を持っているとのことで、懇談においても長瀬委員の発言にもあったように、新たな不登校児童生徒を生み出さないよう効果的な未然防止が急務であると述べられており、県ではこのことに対しスクールカウンセラーなどにより対応していくとのことでした。県下においては小中学校のこともあります。高校の数値も懸念される部分で将来的にニートにつながる心配があり、社会にとって大きな損失となるため連携の窓口を広げ社会全体に向けての呼び掛けが必要だと思います。

また、NPOの方々と話す機会もあり高校生の子を受け入れた活動をしていることをお聞きしましたが、ボランティアだけの取り組みには限界もあり活動を充実させるには社会における公的な位置づけが必要との意見でした。

様々な方々と意見交換する中で、未然に防止し早期発見・対応をすすめるには関係機関の連携や教職員の多忙化解消が必要であり、また各施策において手厚い対応を行うには多くの人に関わる必要があり予算的措置が課題であると感じています。

○岡田委員 長瀬委員が言われるように、学校生活や学力が原因で不登校となる子や家庭内の問題で不登校となる子もあり、そのために関係機関の連携が必要であり、今後、連携が広まり強化されることに期待します。

社会教育委員会議での資料にも不登校の原因は一つではなく複合的との意見があり、改めて家庭の支援が必要であると感じました。不登校の原因が学校にあるにせよ家庭にあるにせよ、家族が子どもを支えていくことは間違いないことですが、保護者も不安を抱えて苦しんでおり、保護者の方が悩みを打ち明け苦しみを共有できる場が必要であると感じました。

○打江委員 子どもは誰しも少なからず悩みや不安を抱え、時には学校に通いたくないとの気持ちがありながら通学することもあり、学校に通えない子どもはその感情を抑えきれず不登校になったのだと思います。大人が考えるような原因を解決しても子ども

の中でも説明ができず何かモヤモヤしているので、不登校という形で感情をあらわしているのではないのでしょうか。対策の一つに早期発見がありますが、担任の先生も複数の児童生徒がいる中で、なかなか気付けないこともあるかも知れませんが、複数の先生の目で見ることにより気付きにつなげることができると思います。そして子ども本人だけでなく、特に家庭的な問題には家庭にも目を向け保護者を支援することが大切だと感じます。

○中村教育長 私の中で大切にしなければいけないと感じていることは、長瀬委員が1年前に教育委員に就任され不登校問題に対し常々発言されている内容と同じで、この件に関し学校教育課がどれだけ本気で立ち向かえているかということです。つまり、子どもたちは様々な場面で悩みを抱えることがあり、スクールカウンセラーやであい塾などの施策は行っていますが、極端な言い方をすると学校教育課が先生と仲間がいる学校という場を子どもにとって真に安らげる場にしようとしているのかということです。今年度、一学期中の学校訪問でも各校に子どもに向き合い何かを感じ取るため、時間と心を割くことを強く伝えましたが、この部分は本日の報告の中身で更に検討が必要な部分であり、指導主事の総力を挙げ対応し今後の会議で提案してください。

○針山委員 私達は学校現場の多忙化解消を課題とし学校のスリム化や二学期制の導入等について議論していますが、資料の（１）の対応策では、図書館指導員や保健相談員、特別支援員など人的増員をする部分だけが書かれていますが、学校も校長先生を中心に内部でスケジュールを一から見直したり個々の取り組みを再確認するなど、人的増員がなくとも多忙化解消に向かっていく心構えがなくては実現しないと思います。その取り組みの中で、私達は人的増員のために意見を交わし予算獲得に向け努力していく必要があります、学校現場と両輪になって頑張りたいと思います。

○中村教育長 針山委員に補足いただきましたが、本当に大切な部分だと思います。資料についてももう少し話をさせていただくと、子どもたちの居場所づくりのための図書館指導員の配置を例にすると、もっと内容を突き詰めて検討をしていかないと本当に大切な部分の中身が伴っていかないので、さらなる研究と議論をお願いします。

○打江委員 指導員や相談員の配置もそうですが、私の子どもの頃を思い出すと学校には先生の外に用務員さんがみえて、そういう方と話をすることで気持ちが楽になった記憶があります。もっと学校内全体での居場所についても考えていく必要があるのかと思います。

○中村教育長 繰り返しになりますが、この資料に書かれている内容についてもっと議論を行い、教育委員会や学校、先生、保護者がお互いに共通認識として理解を深め取り組んでいく必要があると考えています。

○中村教育長 それでは、それぞれ発言いただき意見も尽きたようでありますから、これで本日の議論を終結いたします。

○中村教育長 次に日程第3、報告30「高山市内高等学校との連携強化について」を事務局より報告願います。

○山本学校教育課長<資料に基づき説明>

○中村教育長 <各高校との面談状況について報告>

○中村教育長 事務局の報告は終わりました。ご質疑等はございますか。

○長瀬委員 今回の連携強化を提案するにあたり、当初はあまり仰々しくないようにと思っていましたが、1点目として8月定例会で局長より協定という手法もあることを聞いて、考え方として必要なことだと感じました。協定締結を行った場合、報道等を通じて高山市と市内高等学校が協定を結んだことを市民の皆さんに広く知っていただければ、良いことだと思います。2点目は、以前一覧表で説明しましたとおり、既に市内小中学校と高等学校の連携はそれぞれ行われています。ただそれは、A中学校とB高校のように主に一对一の関係が多く、市内の4つの高校と全小中学校のように全体という形にはなっていません。協定にあわせて無理のない範囲で、例えば夏休みにそれぞれの地域の小中学校において高校生が宿題を教えたりできれば、市内全域での取り組みとすることもできると思います。3点目は、教職員連携強化においては、小中高特の生徒指導連携会議となっていますが、少し趣をかえて高山市で行っている郷土教育やキャリア教育等で連携の取り組みができれば面白いと思います。

○打江委員 子ども達は高校へ進学する際にオープンスクールに参加する程度で進路を選択しなければいけない現実があり、何を価値観として高校を選択するか非常に迷うところで、将来の自分の姿を想像し高い志を持てる子もいますが、何となく進学する子もいて、その意味で高校との連携は意義があることだと思います。

○岡田委員 資料に書かれているように既存事業でも高校と小中学校の連携事業がありますが、多くは一部の限られた生徒のみの参加となるため、もっと多くの子ども達が交流できる形であれば望ましいことだと思います。小学校から中学校までの間で、例えば食や園芸などテーマを決め市内全校のある学年の児童生徒が高校へ出掛けて専門的なことを学ぶ機会があれば、将来を考えるうえで大変役立つと思います。長瀬委員が提案される各地域での夏休みの勉強会は、単に宿題を教わるだけでなく身近な先輩から進路について率直な意見を聞ける場にもなり、大変魅力的だと感じます。

○野崎委員 長瀬委員が教育委員となられてから高校との連携の必要性を考えるようになり、

今年度その内容を具体的に提案いただいたことで、これまで別々に行われていた事業にも関連性が生まれ幅が広がることが素晴らしいと感じました。小中学生が高校生から学習や進路を学ばせていただくことは、児童生徒にとってプラスとなるだけでなく、高校生にとっても後輩に伝えることで自分自身を振り返り、更に将来を見定める機会にもなり大変意義あることだと感じました。

○針山委員 新たな試みとしての高校との連携について勉強させていただいている段階ですので、実際に高校教師のご経験のある長瀬委員に少し質問させていただきます。まず、スタディサポートに出席する高校生は積極的に参加できているのですか。

○長瀬委員 私の経験からは、積極的に参加できていると思います。生徒はそれぞれの学科でプライドを持って学び、さらにその中でも専門的な分野について10人前後のグループにより大学でいうゼミのよう形で研究を行っています。生徒自身の誰もが自分達の学びに自信を持ち後輩を指導することができています。

○針山委員 この事業スタートのきっかけとしては、校長先生等からの提案によるものですか。

○長瀬委員 必ずしも校長という訳ではありませんが、日々学ぶ専門学科についてもっと広めることができないかとの思いで、出前授業的なものからスタートしています。飛騨高山高校の場合は学習成果発表会という行事があり、基本的に全員が発表に関わっています。まずは校内で農業、商業、普通科などの学科ごとに発表しますが、多くの学科では2年生から研究テーマに取り組んでおり、1年生から3年生まで全員が参加し1日かけて発表します。次の段階は学科毎に3つ程度のテーマを選び、市民文化会館において1日かけて実施し各自10分程度のプレゼンをしています。この行事は全員参加であり、普通科には研究テーマはありませんが大学進学後に何を勉強するのか見て学ぶ必要があり、当初は受付や進行といった役割りで関わり、今は英語スピーチを行っています。本当に素晴らしい発表で感動する内容ですので、各委員にも是非とも見ていただけたらと思います。

○針山委員 最後に高校の先生方の多忙化の状況はどうですか。

○長瀬委員 やはり小中学校と同様に多忙な状況です。高校では学科によっては資格取得に向けた取り組みがありますし、部活動についてもより専門性、競技性も高まりますので、休日返上で指導にあたる先生も多くいる現状です。

○針山委員 今、私達は学校の多忙化解消をテーマに議論を続けていますので、この連携は既存の内容をうまく繋いでいる事業だと思いますので、その辺りの影響も少ないのではないのでしょうか。

○長瀬委員 多忙化には配慮しなければいけませんが、何かを始めるという意味では新たな要

素を加えインパクトを持たせる必要があると思います。これまでは良いことであると感じていても小中学校と高校の間にはお互い遠慮があったと思います。確かに負担となる部分もあるかもしれませんが、それ以上に教える方も教わる方にもメリットが大きいので教育委員会としてバックアップしスムーズな連携が図れるよう発信できれば嬉しいです。

○野崎委員 高校へ赴いた際に発表会の資料を見たことがありますが、実に素晴らしい内容でした。まずは、私達教育委員が実際に発表を見て理解し、小中学校にどの部分を繋げるかを研究する必要があると感じました。

○長瀬委員 本町の店舗でアイスクリーム販売したり、山田キャンパスでは月水金の3時から4時に農産物や加工品の販売もしていますので、そのような状況も見えていただければと思います。

○中村教育長 私も何度か見ていますが実に素晴らしい内容です。会場の関係で関係者以外の参加には制限もあると思いますが、例えばケーブルテレビ等の年間スケジュールで放送するなど、次代を担う高校生の発表内容を広報やメディアを通して市民や児童生徒に伝えることで学校の取り組みが周知されると思います。

○中村教育長 それでは、それぞれ発言いただき意見も尽きたようでありますから、これで本日の議論を終結いたします。

○中村教育長 それでは、以上を持ちまして、本日の議事日程が全部終了いたしましたので、本日の会議を閉じ、平成28年度第9回高山市教育委員会臨時会を閉会いたします。

午後3時30分閉会